漁師養成へ漁業学校開校～3泊4日で漁業の基本学ぶ
ひょうたん島日記（2013.01.20）
http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2014011400030/
震災で打撃を受けた漁業の再興に向けて担い手を増やそうと、大槌町は1月14日から3泊4日の日程で「漁業学校」を開校し、漁師の養成に乗り出しました。町内外から3人が参加し、定置網漁を体験したり、魚の料理法を実習したりして、漁業の基本を学びました。3人は「充実した時間だった。漁師さんたちがいきいきと活動しているのが印象的だった」と感想を述べました。

この体験講座に応募したのは、大槌町のＩＴ関連企業に勤務する　　さん（　）、愛知県岡崎市出身で遠野市に住む　　さん（　）ら3人。

　　さんは震災で、漁師をしていた父の　（　　）さん（当時　）と母の　　さん（当時　）を亡くしました。「両親を奪った海は嫌いだったが、いつまでも目を背けていていいのかと考えた」と受講の理由について語りました。

震災直後から被災地のボランティア活動に取り組んでいる　　さんは「大槌の海産物の素晴らしさを全国に伝える橋渡し役をやりたい」と話しました。

3人は、初日に、座学で漁業制度の仕組みを学びました。2日目には定置網漁を体験し、魚市場や大槌川さけ・ます人工孵（ふ）化場を見学、ロープワークや網の修理を実習しました。3日目にはホタテの水揚げ作業をし、魚のさばき方や料理法を学びました。

講座を終了し、　　さんは「海に心を向けることができた。漁師になることを両親はきっと喜んでくれるでしょう」と前向きになった気持ちを説明しました。　　さんは「漁師の姿が具体的に見えてきた。都会で疲れた人たちにとって、漁師という職業は新鮮に映るのではないか」と指摘しました。

漁業は大槌町の基幹産業です。しかし、震災をきっかけに、旧大槌町漁協の経営が破たんし、漁協の組合員は3分1以下に減りました。そのため、町が漁業に関心を持ち漁師をめざす人を増やしたいと、体験講座を受講料、宿泊料無料で開催しました。体験講座を経て、漁師をめざす受講者には、3カ月間の長期研修や、漁師に弟子入りする2年間のコースが検討されています。

新おおつち漁協の　　組合長は「漁業は頑張れば収入につながるし、収穫の喜びもある。漁業に魅力を感じてほしい」と歓迎し、漁業学校を発案した大槌町の碇川（いかりがわ）豊町長は「町に定住し、担い手になって町の活性化につとめていただければうれしい」と期待しています。